



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROBOTO

2026年(令和8年)7月5日号 No.2028

目次

■ ロシア・ASEANサミット概要と対外経済関係	1
■ 統計速報	9
2026年1～3月のロシアの主要経済指標／9	
■ キーパーソン	13
プーチンの元側近S.イヴァノフ氏死亡／13	
■ トピックス	14
国光外務副大臣・山田経産副大臣がウクライナを訪問／14	
EU、ウクライナ向け融資の第1弾を実行／14	
ウクライナ復興会議2026開催／14	
キルギスとの新租税協定が発効へ／14	
福島県双葉町とウクライナ・スラヴチチ市が協力協定締結／14	
日本政府、医療分野でモンゴルに9.8億円の無償資金協力／14	
日本とウズベキスタン、育成就労制度に関する協力覚書締結／15	
カザフスタン、新憲法施行に伴い議会選挙実施へ／15	
日本政府高官、ウクライナ外相と会談／15	

ロシア・ASEANサミット概要と対外経済関係

(一社)ROTOBO ロシアNIS経済研究所
次長 中馬 瑞貴

はじめに

2026年6月18日、ロシアのタタールスタン共和国カザンにおいて、第5回「ロシア・ASEANサミット」が開催された。東南アジア諸国連合、通称ASEANは、発起国であるインドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイの5カ国に、ブルネイ、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア、東ティモールが加わり、現在は11の加盟国で構成されている。今回のサミットには2021年のクーデター以降、軍事政権のサミット参加が認められていないミャンマーと、国内対応を理由に大統領の欠席を決めたインドネシアを除く、9カ国の首脳がロシアに集結した。

そこで本稿では、ロシアの重要なパートナーの1つとなりつつあるASEANとの関係について、今回のサミットの概要に加えて、対外経済関係、特に貿易の動向にも触れながら紹介する。なお、侵攻以降、ロシアは国別の通関統計を明らかにしていない。そのため、本稿では主にASEAN側の貿易データを使用したが、最新の2025年の数字についてはASEAN側も明らかにしていないところが多いため、各種報道も参考にしている。